

2004.06.23 IODP 部会事務局

日時：平成16年6月18日（金） 10:00～12:00

場所：海洋研究開発機構東京事務所セミナー室

出席者：執行部 徳山・荒井・伊藤・佐柳・徐・巽
部会長補佐 斎藤 事務局 山川・西川

【会長交代手続きについて】

- ・ 事務局より、会長交代の手続きが完了したことが報告された。
- ・ 会長印の扱いについて、コンソーシアム事務局が会長に確認し、通常の事務手続きに関しては事務局判断で会長印の押印を行うことになったとの報告があった。なお、重要な案件については会長に報告・相談し、検討案件は各部会執行部で判断・指示のもと押印することとした。

【会員提案型活動経費の募集について】

- ・ 事務局から審査状況について説明があった。
- ・ 会員提案型活動経費の旅費としての使用制限の緩和については、陸上掘削部会とも検討し、適用範囲の拡充の方向で調整してゆく。

【SPC 横浜会議報告】

- ・ 巽振興部員から報告があった。今回ランキングされたプロポーザルは9月の OPCOM でスケジューリングされる見込。その後共同主席研究者の推薦、乗船研究者の募集をする必要がある。
- ・ SAS 構造について、これまで国内で検討してきたものが、SPC の SAS WG から報告された。常設委員会としての TAP、ILP のあり方などが議論された。今後、7月の SPPOC で SPPOC SAS WG 報告（Coffin SPC 議長）があり、最終的には年末の SPPOC で方針が決まる見込。
- ・ SAS、SPPOC、IODP-MI BoG 等の構造、役割分担を明確にする必要があるとの認識。今後 SPPOC 事前打合せでも話題とし、国内における関係者の考え方を整理しておく必要がある。（必要に応じて AESTO の CMO 運営検討委員会と連携）
- ・ 伊藤・巽両 SPC 委員が今回の SPC をもって退任することが決まった。後任の人選を進める。（その後、SPC 委員に提案した候補者（JAMSTEC 北里氏、島根大 野村氏）が了解され、必要手続きを進めることとなった。）

【各専門部会・国際パネル等への対応について】

- ・ SSEPs 委員の公募（自薦・他薦ともに可）を開始する。募集文書は徳山部会長・井龍執行部員が地球内部・地球環境両専門部会と調整し、決定する。応募書類の取りまとめは

部会事務局、審査は関連専門部会で行う。

- PPSP（汚染防止安全パネル）が EPSP に名称変更された。和訳名は MEXT の見解に基づき決定。（なお、EPSP の和訳名は、執行部会後、MEXT の見解に基づき、環境保護安全パネルと決定された。）
- EPSP カレッジステーション会議に先立ち、汚染防止安全専門部会を 6 月 1 日に開催した。議事録は森田部会長より提出されている（佐柳執行部員が最終調整）。
- 汚染防止安全専門部会において、EPSP の改称に伴い、汚染防止安全専門部会名を変更することが検討、了承された。名称に関しては、EPSP の和訳名が決定されたことから、森田専門部会長と最終調整（佐柳執行部員）、調整後、部会幹事会に報告する（事務局）。
- SciMP ボストン会議の開催に先立ち、科学計測専門部会が 6 月 4 日に、情報システムワーキンググループが 6 月 5 日に開催された。斎藤部会長補佐から両会議の報告があった。
- SciMP 委員の交代（2 名）、SciMP 担当 SPC 委員の交代を検討する。
- TAP 長崎会議には、徐 SPC 委員（TAP 担当リエゾン）の代理として、伊藤 SPC 委員が出席する。
- TAP 長崎会議に先立ち、技術開発推進専門部会を 6 月 21 日に開催する。
- IODP 部会事務局（AESTO）より、IODP 部会の各専門部会・執行部と、AESTO 設置の IODP 国内科学計画委員会の連携が打診され、各専門部会間での情報交換・問題認識を含め、国内における IODP 科学推進の検討を行うため、7～8 月頃に IODP 国内科学計画委員会を実施し、意見交換することが確認された。今後 AESTO にて委員会開催準備を進める。なお、委員会の実施（準備調整）にあたっては、必要に応じ徳山部会長が事務局とともに対応する。

【広報・国際対応関連の報告】

- 木戸執行部員より、IODP Education and Outreach Task Force（5 月 17～18 日；ワシントン D.C.）の報告があった（資料配布）。今後も Task Force は継続して実施される見込。
- 伊藤執行部員・斎藤部会長補佐・佐柳執行部員より、「科学者と掘削技術者の相互理解と将来」ワークショップ（6 月 3～5 日）の報告があった。
- 徐執行部員・木戸執行部員から、AOGS の準備状況が報告された。Agenda を最終調整し、来週中にもメーリングリスト等で発信する。
- 巽執行部員・事務局から、第 2 回 IODP 大学&科学館キャンペーン（宇都宮）の報告があった。

【広報・国際対応関連の検討事項】

- IODP 大学&科学館キャンペーンの番外編として、7 月末の青少年のための科学の祭典（松本）及び国立科学博物館の夏休み特別展に出展、それぞれで一般向けイベントを実施する。JAMSTEC/CDEX と共同で対応する。
- 地質学会で夜間小集会を開催する（陸上掘削部会と共同で、コンソーシアムとして実施）。IODP 部会からは、木戸執行部員が責任者として対応する。
- 地質学会で IODP 関連のブース展示を行う。JAMSTEC/CDEX との共同出展とし、ブース出展料を J-DESC/IODP 部会で負担する。今後 CDEX 側に打診し、調整を進める。IODP 部会からは、斎藤部会長補佐・木戸執行部員が担当者として対応する。（その後、事務

局より CDEX に打診したところ、共同出展を了解する旨の連絡があった。）

- AGU 主催 Western Pacific Geophysics Meeting (8月; ハワイ)、IGC (8月; イタリア) への J-DESC としての出展等は見送る。(AOGS に力を注ぐ。)
- 12月の AGU については、USSAC、ECORD との共同対応が必要と認識。今後日本側 (J-DESC) から欧米側に働きかけてゆく。(斎藤部会長補佐・木戸執行部員担当)
- 学会等の場では、IODP 特別セッション等を設け、プロポーザルのサポート、IODP 研究成果の公表などにも積極的に取り組んでゆく必要がある。(今後検討)
- 埼玉県の高校の地学教員の研究会より、地球掘削に関する講演依頼(12月実施)があった。コンソーシアムとして対応してゆく。(まずは事務局で詳細を詰める。)

【IODP 乗船研究関連】

- 荒井執行部員から、IODP 航海乗船者の応募・推薦作業の状況・IOによる乗船研究者選任結果が報告された。
- MSP 北極海航海への教員乗船枠 (Teachers at Sea Program ; 定員2名) へ、日本未来科学館の新井さんを推薦したとの報告があった。
- 今後、Teachers at Sea Program 等への乗船旅費確保のため、(日本財団等の) 助成金申請などの可能性を検討してゆく。
- NA-II について、今後、金松 co-chief、関連専門部会等と乗船研究者の推薦作業を進める。
- Juan de Fuca 乗船研究者のプレスリリースを実施した (MEXT 及び各機関)。今後も継続して対応してゆく。

【その他】

- 国際パネルへの出席者に関する MEXT 内部資料が公表された。(SSEPs、EPSP、SciMP、TAP)
- 次回執行部会は、7月23日(金)午後3時から、海洋研究開発機構東京事務所で行う。